

ゆうゆう館の再編についてご説明します

ゆうゆう館の機能・役割を継承していきます

SUGINAMI



ゆうゆう館がなくなるの？



現在のゆうゆう館の機能や役割が、なくなる訳ではありません。多世代が利用できる地域コミュニティ施設に段階的に再編し、その機能・役割を継承・発展させていきます。

- 今後、高齢化の一層の進展により、元気な高齢者が増えていく中で、身近な地域に健康づくりや生きがい活動などの場所を確保することはますます重要になってきます。
- 一方で、少子高齢化の進展により、今後、区税収入が減少していくことが予測される中で、区民共通の財産である区立施設を、より有効に活用していく視点も欠かせません。
- そこで、現在は高齢者専用の施設であるゆうゆう館を、多世代が身近な地域で利用できる地域コミュニティ施設へ段階的に再編し、その機能・役割を継承・発展させていきます。



地域コミュニティ施設は、どんな施設で、どれくらい設置する予定なの？



「高齢者のみ」や「小中高生のみ」といった特定の年齢層を対象とするのではなく、子どもから高齢者までが、身近な地域で、集い、活動し、交流できる地域の施設です。

- 区民集会所（10 か所）、区民会館（3 館）、ゆうゆう館（32 館）、児童館（41 館のうち一部）を対象にして、地域コミュニティ施設への再編を図ります。
- 多くの施設を地域コミュニティ施設への再編の対象とし、再編にあたっては地域のバランスや利用者の皆さまの利便性にも十分配慮しますので、将来的には、高齢者の方が利用できる施設数は現在のゆうゆう館数（32 館）よりも充実します。
- 地域ごとの配置数や施設規模などは、今後実施するモデルとなる取組も踏まえ、多くの世代の皆さまのご意見を伺いながら検討し、31 年度以降に具体化します。



Q. ゆうゆう館はいつから地域コミュニティ施設になるの？

A. (仮称) 杉並区区立施設再編整備計画第2次実施プラン(31～33年度)で計画化を図ります。それまでの間は、地域コミュニティ施設のモデルとなる取組を実施する4館を除き、今までどおりの運営をしていきます。

なお、集会室については、町会や青少年育成委員会等の地域団体の利用枠を確保するとともに、27年1月から、杉並区公共施設予約システム「さざんかねっと」による夜間の目的外利用の予約を可能にして、利用率の向上を図ります。

Q. モデルとなるゆうゆう館はどこですか？

A. 26年度から30年度までに、保育施設への転用等により他所へ移転する以下の4館において、多世代が利用できる地域コミュニティ施設のモデルとなる取組を行い、その後段階的に再編を進めていきます。

- 「ゆうゆう下高井戸館」…高井戸第三小学校敷地内への仮移転を経て、下高井戸児童館内に移転
- 「ゆうゆう阿佐谷館」…廃止後の阿佐谷区民事務所・会議室跡地に移転
- 「ゆうゆう馬橋館」…旧・高円寺保健センター分室用地の活用・移転を検討
- 「ゆうゆう天沼館」…天沼中学校敷地内の活用・移転を検討

Q. 地域コミュニティ施設になったら、有料になるの？

A. これまでのゆうゆう館は無料の施設として運営をしてまいりましたが、地域コミュニティ施設への再編後の料金のあり方については、モデルとなる4館の取組を踏まえ、今後、多くの世代の皆さまのご意見を伺いながら、検討してまいります。

Q. ゆうゆう館が行ってきた協働事業はどうなるの？

A. ゆうゆう館の協働事業は、各事業者の創意工夫により、高齢者の地域活動やゆうゆう館利用の活性化に大きく寄与しています。地域コミュニティ施設の運営方法については、これまでゆうゆう館が行ってきた協働事業を参考に、モデルとなる4館での取組を通じて、検討してまいります。

